

ミンダナオの風

発行：ミンダナオ子ども図書館 編集：松居友

2020年12月：79号



ミンダナオ子ども図書館を立ちあげる時に
イメージの中に浮かんできたのは、
ファイアーツリーと呼ばれる

ミンダナオ子ども図書館の入り口に今もたつ
火焰樹の大木と、カラバオだった！

カラバオとは、

上の写真で子どもたちの乗る牛ソリを
引いている水牛のこと！

ミンダナオ子ども図書館は、牛ソリの上に、
戦争で親を失った孤児や

極貧で崩壊した家庭の子どもたちをのせて、
ヒナイヒナイ バスタ カヌナイ

ゆっくりゆっくり でも たえることなく
ソリを引っぱっていく水牛のよう！

水牛の素晴らしいところは、
四輪駆動の車でも登れない山の斜面の泥道も、
舟でしか行けない、湿原や川や水田も、

ご馳走ではなく、草しか食べていないのに
力強く進んでいけること！

ミンダナオ子ども図書館の子どもたちも
スタッフもまるでカラバオのよう？

体が小さくても、友情を持って野山を走り
おたがいに助けあってソリを引く！

ほくの方が、ソリに乗せてもらっているみたい？
でも水牛が、病気を治せるのも、

牛ソリに乗った子どもたちが、学校にいけるのも、
日本の皆さんのおかげです！

子どもたちが、いつも言う言葉。
「ほんとうに、ありがとう！」

「いつか、皆さんを乗せられたらいいなあ！」

「わたしたちが引っぱって、坂道も助けてあげるよ！」
「ねえ、ミンダナオ子ども図書館に乗りに来て！」

若い世代の感性が見たミンダナオと日本

わたしのMCL体験記(2)

鈴木 琴美

前回に引き続き、私がMCLで体験したことや感じたことを、当時18歳の私が書いていた、拙い日記と共に振り返りたいと思います。

「子ども達の中に、片腕がない子とか、両足がない子がいた。びっくりした。紛争とかのせいだろうという体になっちゃったのかな・・・」

MCLには、たくさん子ども達いますが、その中には五体満足でない子も何人か暮らしていました。

私が日本で生活している中で、身体的障壁を抱えている人と生活した経験は一度もありませんでした。町中ですれ違うことや、テレビの特集で見るとはありましたが、そういう人たちを見るたびに、当時の私は率直に、「可哀想」と思っていました。

私は勝手に、自分たち五体満足の人とは違う生活を、自分たちよりも不便な生活を送っていると決めつけ、同情の意味を込めて「可哀想」という視線を向けていたのだと思います。不幸な気持ちを抱えて生きているのではないかと、心の中ではそう思っていました。



しかし、MCLでの生活を経て、その考え方が変わりました。

「MCLには五体満足じゃない子が何人かいる。だけど、みんなと同じように生活している。溶け込んで生活している。ピーターは、片腕しかないけど私が弾けないギターをめっちゃ上手に弾いている。それに、いつも私のことを気にかけて、「元氣？大丈夫？」って声をかけてくれる。



カートは、両足がないけど、両手にサンダルをはめて、みんなと同じように歩いて移動してる。こないだは、私にコーヒーを入れて飲ませてくれた。たぶんずっと私は、障害者は弱い

人って思ってたけど、なんか違う。2人ほっといても強い。私よりもずっと強い。そして優しい。ありがたうの気持ちがいっぱい溢れてくる」



MCLには、身体的障壁を抱えた子何人かいましたが、日記の中にも書いているように、他の子となら変わらず生活していました。

両足がなければ自分で椅子に座ることができないので、そういう時には周りの子が椅子に乗せてあげていました。しかし、周りの子にとってもそれが普通な様子で、可哀想だから手伝ってあげるとか、特別視して接している雰囲気は一ミリもなく、「仲間ができないことを手助けしている」、「当たり前」の風景に思えました。

それに、できないことも勿論ありますが、本人たちは自分の体で自分ができる方法を見つけて生活していました。彼らは、自分でできることの方が多くて、当時、可哀想と思っていた私は何かしてあげるよりも、むしろ助け

てもらおうことの方が多かったです。

まず、片腕を失ったピーターとの出来事をお話します。ピーターは、子ども達の中でもリーダー的存在で、とてもしっかりした面倒見のよいお兄さんでした。

MCLを訪れたばかりの頃、私は、子どもたちと上手く会話もできなくて慣れない環境下での生活にも少し疲れていました。

そんな時、部屋の外に出ると、ピーターがギターを弾いていて、私が来たことを察すると笑顔を向けてくれました。そして、「琴美、元氣かい？何かあったら僕を頼ってね。いつでも助けるよ」と声をかけてくれました。

それから、私の顔を見るたびに「Are you OK?」「Are you fine?」と明るく声をかけてくれました。他にも、子ども達が話すピサヤ語が分からなくて会話についていけない時は、簡単な英語を使って隣で説明してくれました。

ピーターは、ある方の腕を使って器用に生活していましたし、ギターを弾いたり、みんなと一緒にバスケットもしていました。ピーターからギターも教えてもらいました。私は、ピーターの言葉や優しさにたくさん支えてもらって生活を送っていました。

医療や読み聞かせ等の活動全般にかかる経費と子供たちの生活費を支援・・・自由寄付

寄付をくださった方には隔月に機関誌『ミンダナオの風』と

時には機関紙に代わってMCLで企画した絵本をお届けいたします。

(銀行振込、ネットバンキングも可能です) ■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900

■店番 019 ■預金種目 当座 ■店名 〇一九店(ゼロイチキウ店)

■口座番号 0018057

若い世代の感性が見たミンダナオと日本

もう一人、両足を失ったカートのお話をします。カートは、生まれつき両足がないと教えてもらいました。

カートの印象は屈託ない笑顔と、すぐにジョークを言う面白い性格です。私は一度、みんなの後ろにくっついて学校へ行ったことがあります。学校やバス停までの道のりは、舗装のされていない砂利道でした。

カートはどうやって行くんだろうと思っていると、両手にビーチサンダルをはめ、両腕の力で体幹を持ち上げて歩いていきました。初めてその姿を見たときはとても驚きました。しかし、驚いているのは私だけで、カートにとっても他の子にとってもそれが当たり前の日常なのです。

この2人と出会ってから、身体的障壁を抱えた人に対する「弱者」、「可哀想」という考えは大きく変わりました。そして、自分自身が無意識のうちに、五体満足の人とそうでない人を区別して考えていたことを恥ずかしく思いました。

体に不自由を抱えることは大変な場面もあるだろうし、生活の中で不自由することもあると思います。それは、健常者として何不自由なく生きてきた私には理解しきれないことだと思いません。

だけど、それを私が不幸と決めつけるのは間違っているし、強者や弱者と区別することも間違っていると感じました。むしろ、MCLでは私の方ができないことや分からないことばかりで、常に助けをもらう側でした。

腕や足があっても、できないことはたくさんあるし、分からないことも山ほどあります。「人は一人では生きていけない」という言葉を聞いたことがあります。まさしくそうだと思います。体の不自由関係なく、どんな人であって生きていくためには誰かの助けが必要なのだと気づきました。

MCLでは、その助け合いが当たり前の光景でした。年上の子も年下の子



筋ジスのベンジーは、スタッフになった後、ラジオ局に!

も、五体満足な子もそうでない子も、宗教が同じでもそうでなくても、みんなが協力し合って暮らしていました。お互いにお互いを特別視することなく、受け入れあっていました。他の国から来た、顔つきも話す言葉も違う私のことを受け入れてくれました。この「受け入れてもらう」ということが私はとても嬉しく感じましたし、人と人が生きていくうえでとても大切なことではないかと感じました。

私のように、五体満足でない人に対して、「可哀想」とか「私とは違う」という目線で見られることは、相手を受け入れていなかったのだと思います。

「M」での経験を経て、私は、他の人に対して自分とは違う何かを感じたとき、それを相手の「個性」と捉えるようになりました。



両足に義足を付けた彼女もスタッフだった!

一人一人、顔が違うことや信じるものが違うこと、考えていることが違うこと、体つきが違うこと、全てその人の個性でそこに格差はないと思います。人間はみんな平等だし、どんな人も生きていく力をもっていて、自分が生きていけるやり方で一生懸命生きていくことを「M」で学びました。

そして、助け合いと思いやりの気持ちをもって人と接することの大切さと、それを当たり前に行っている子どもたちの姿を心から素敵だと思いました。「可哀想」と思ったり、「してあげる」という気持ちのうえでの優しさではなく、「できないことは助け合うのが当たり前」という考え方や、思いやりの心をもって、周りの人を受け入れ大切にできる大人になりたいと当時の私は感じました。

あの時MCLで感じた思いは、今、20代半ばになった私の中にも変わらずずっと残っています。



事前の紹介や希望、訪問などのご相談は、メールで現地スタッフの宮木梓（あずさ）さんか、FAXで日本事務局の前田容子さんに！訪問の際は、ダバオ空港にお迎えに行き、MCLに宿泊していただき、奨学生の自宅にもご案内します。宿泊費はとりません。

3

奨学生の紹介、現地訪問、機関誌停止その他に関するお問い合わせは、
メール mclmindanao@gmail.com 現地日本人スタッフ：宮木梓（あずさ）
FAX： 0743 74 6465 日本事務局 前田容子

個人支援者のいない私たちの、里親になってくださいね！

偏見や自分との違いで相手を判断しないこと、誰かに助けてもらっていることに感謝をし、私も誰かの力になりたい手助けがしたいと思っています。今ある考え方や感じ方は、これまでの経験がなかったら得られなかったかもしれません。日本で生活しているだけでは出会えなかった子どもたちとの関わりや、そこから感じたことが今の私の基盤になっていると改めてそう感じます。



**個人支援者のいない
私たちの、
里親になってくださいね！**

Jemalie C. Luna
(2007年12月5日生まれ)

12歳 セブアノ族
マノンコル小学校6年生

ハイ！ 私の名前はジーマリー。今年度から、小学2年生の弟と一緒にMCLの奨学生に採用されました。

私の家は、MCLから車で2時間くらい西の方向へ行った、ピキットの、バラングイ・タケパンにあります。ピキットは、イスラム教徒のマギンダナオ族の人々が多く暮らす土地ですが、私たちの家は、カトリックを信仰しているセブアノ族の集落にあります。私たちの家族も、カトリックを信仰しています。

家族は、お父さん、お母さん、そして私を入れて9人兄弟です。2年前に、10人目の妹が生まれたけど、生まれてすぐに亡くなってしまいました。私は、上から数えて6番目に生まれました。

私たちの、一番上のベーンお姉ちゃんは、生まれつき目が見えませんでした。お父さんは、ココナツの実の収穫や、トウモロコシを植えて、お母



さんもそれを手伝っていますが、生活がとても厳しいので、ピキットの福祉局の支援で、MCLを紹介され、まず、お姉ちゃんがMCLの奨学生になり、ダバオの全寮制の盲学校に入りました。そして、兄弟が多く、食べていくことも難しいので、エヴィリン姉さんと、ジャンレイ兄さんも奨学生になり、MCLに移りました。

でも、エヴィリンは学校を止めてしまい、ミドサヤフという町に出て、住み込みの家政婦をしていたところ、その家の男の人の子どもを妊娠したので、そのまま結婚して、今はあまり家に帰ってきません。

ジャンレイは、小学1年生の頃からずっとMCLで暮らしていて、もう中学3年生になります。

ベーンは、ダバオの盲学校で高校のジュニアハイスクールまで修了することができましたが、進学先のシニアハイスクールが職業訓練校が見つからず、休学中です。お兄さんやお姉さんが奨学生でも、生活は変わらず厳しいので、今年から、私と弟のマニーもMCLに住むことになりました。7月にはMCLに移りましたが、新型ウイルスの流行で授業が始まらず、10月になってようやく家庭学習での新学期が始まりました。

私は、実家を離れることに不安を感じるより、MCLに移れることにワクワクしていました。お兄ちゃんも弟も一緒だし、きっと大丈夫だと信じていました。MCLでは、ご飯の心配をする必要がなく、お米を一日三食お腹いっぱい食べれるし、お魚や鶏肉のおかずが出るのが、とてもうれしいです。それに、たくさんスカラータちがいて、賑やかで楽しいです。

私は、今年度小学6年生になりました。今年は、授業が遅れています。もうすぐ小学校を卒業できると思うとうれしいです。MCLの奨学生になったので、高校への進学も、お金の心配をしないで済みます。将来は、学校の先生になって、両親の生活を助けられるようになりたいです。日本の皆様のスカーシップご支援に、心よりお礼を申し上げます。



**ゆうちょ振り込み口座 00100-0-18057 :
加入者名 『ミンダナオ子ども図書館』**

(銀行振込、ネットバンキングも可能です) ■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900
■店番 019 ■預金種目 当座 ■店名 ○一九店(ゼロイチキユウ店) ■口座番号 0018057

Mindanao Children's Library Foundation, Inc.

貧しいからといって、必ずしも不幸とは限らない
私たちの生活の方が、豊かな国の人々の生活よりも
はるかに美しいと感じるときだってある。
けれども、どうにもならないのが、たべられないときと、
お金が無くて学校に行けないとき、病気になるても治せないとき・・・



ミンダナオ子ども図書館支援方法

- 1、医療や読み聞かせ等の活動全般にかかる経費と子供たちの生活費を支援・・・自由寄付**
直接下記の振替口座をお願いします。寄付をくださった方には隔月に機関誌『ミンダナオの風』と時には機関紙に代わってMCLで企画した絵本をお届けいたします。
自由寄付は、一番根幹になる寄付です。貧困集落に住んでいる子供たちの薬から手術に至るまでの医療費。まだ支援者が見つからないにも関わらず、放っておけず採用している100名ほどの奨学生達の学費。保護を必要として、MCL本部や下宿小屋に住み込んで学校に行かせている200名ほどの奨学生の生活費。ガソリン代を含む活動全般の諸経費に充てています。
機関誌を楽しみにしている方の場合は、わずかな寄付でもお送りします。
他の方々に紹介していただければ幸いです。不要の方は、宮木梓か前田容子までご一報ください。
- 2、植林環境支援・・・6万円（ゴム、カカオの木600本、1ヘクタール、現地作業代こみ）**
洪水対策と先住民が土地を手放さないようにするための、経済自立支援です。
- 3、保育所建設支援・・・半セメントと竹壁90万円 総セメント130万円**
(福祉局の要望によりスタンダードにしました)
開所式の参加や訪問も可能です。毎年チェックし修理をしていきます。

スカラシップ支援（現在約300名）

ミンダナオ子ども図書館のスカラシップは、成績よりも孤児や片親、母子家庭や崩壊家庭の子、親がいても兄弟が多く学校にいけない子を採用の基準とし大学まで通えます。特に何らかの事情で保護を必要としている子や大学生は、本部や下宿に住み生活を保障（現在約200名）。支援には学費の他に、医療費、制服、学用品、小遣い、下宿代、生活費等が入っています。

- 1、大学生スカラシップ支援・・・年額70000円（月額5833円）**
- 2、高校生スカラシップ支援（日本の中高生）・・・年額60000円（月額5000円）**
- 3、里子支援（小学生）・・・年額40000円（月額3333円）**

スカラシップの場合は、振り込み用紙の通信欄に「大学」または「高校」「里子」等の希望を書いて振り込んでいただければ、現地スタッフの宮木梓よりお便りします。

その後、機関誌に同封して高校・大学生の場合は本人からの手紙（英語）、6月にスナップ写真、8月に成績表、12月にはクリスマスカードが届きます。プレゼントや文通も可能です。日本語の手紙は、現地で翻訳して当人に渡しています。小学生の里子の場合は、まだ字を読んだり書けない子も多く絵手紙での返事ですが、プレゼントは可能で届けます。

事前の紹介や希望、訪問などのご相談は、メールで現地スタッフの宮木梓（あずさ）さんか、
FAXで日本事務局の前田容子さんに！訪問の際は、ダバオ空港にお迎えに行き、
MCLに宿泊していただき、奨学生の自宅にもご案内します。宿泊費はとりません。

奨学生の紹介、現地訪問、機関誌停止その他に関するお問い合わせは、

メール mclmindanao@gmail.com 現地日本人スタッフ：宮木梓（あずさ）
FAX：0743 74 6465 日本事務局 前田容子

詳しくはウェブサイト参照 検索：「ミンダナオ子ども図書館だより」
または、「ミンダナオ子ども図書館日記」から「支援方法」をクリック！

ゆうちょ振り込み口座 00100-0-18057：加入者名 『ミンダナオ子ども図書館』

(銀行振込、ネットバンキングも可能です) ■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900
■店番 019 ■預金種目 当座 ■店名 〇一九店(ゼロイチキユウ店)
■口座番号 0018057

子どもたちの日本公演や松居友、エープリルリン、宮木梓などの講演会、報告会、家庭集会にお声がけください。
講演や家庭集会の設定も、輪を広げていくための、大きな支援のひとつです。

メール：mclmindanao@gmail.com (宮木梓) mcltomo@gmail.com (松居友)

現地住所：Mindanao Children's Library Foundation, Inc.
Brgy. Manongol Kidapawan City North Cotabato 9400 Philippines